

畑石議員（自民議連）

令和4年2月25日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）校長等の人材育成方針について

主体的な学び、自律した人格形成は生徒たちが人生をより良く生き抜く為に必要であり、その最上位目標の為には、従来のやり方を改め、利用できるものは最大限に導入する、この原理原則を現場の教員、そして何より各学校をマネジメントする校長が共有しているかどうか問われる。

そこで、これまでの校長及び教員の育成方針にどのような点で課題があったか、今後どのように変革を試みようとしているのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

本県におきましては、「学びの変革」で掲げた児童生徒の主体的な学びを促す教育活動を推進する上で、教職員に必要な資質を明確化した「広島県教員等資質向上指標」を令和3年3月に策定し、人材の育成に取り組んでいるところでございます。

それまでの指針である平成18年に定めた「教職員に期待される役割と具体的な行動例」におきまして、子供たちが自らの主体的な選択と納得によって自ら学ぶように支援することが教員である、という基本的な考えを位置付けていなかったことが、現在においては課題であったと認識しております。

このため、新たに策定した指標におきましては、教職員に必要な資質として、あらゆる教育活動において、児童生徒が、自ら判断し、行動し、その結果に責任をもつという、いわゆる、自己指導能力の育成ができることなどを位置付けたところでございます。

これらのことを実践する教職員を育成するために、教員がファシリテーターとして児童生徒の伴走者となること、また、児童生徒の考えを引き出す「本質的な問い」の設定による授業づくりを目指した研修を実施しているところでございます。

加えて、これら教職員の育成に当たりまして、校長に求められる資質として、

- ・ 全ての子供たちの可能性を引き出すことを踏まえた教育内容等を、学校の実態に合わせた教育課程として編成することや、
- ・ 子供主体の授業づくり等を推進し、教育活動の質の向上を図ること

などを明示したところでございます。

そのため、管理職等研修におきまして、広い視野に立って学校を運営し、児童生徒の主体性を育む取組が実践できるよう、校長等が挑戦していくために必要な資質能力の育成を図っており、AI学習アプリなどを活用し、多様な選択肢の中から児童生徒自らが自分に合った方法を選択して学習を進めるといった、新たな取組を実践している学校も見られてきているところでございます。

今後とも、児童生徒の主体的な学びを促す教育活動の充実を図って、「学びの変革」を加速できるよう、教職員の人材育成に積極的に取り組んでまいります。